

2018年度第1回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 招福ステークス

招福（しょうふく）は、福を招くこと。新年には、招福を祈願して多くの人が寺社に参拝する。

○ ジュニアカップ

ジュニア（Junior）は、「年少者」「息子」を意味する英語。

○ 日刊スポーツ賞中山金杯（GⅢ）

本競走は、昭和27年に『金杯』の名称で創設された重賞競走。当初は2600mのハンデ戦で実施されていたが、29年から別定重量戦に変更され、36年には2000mのハンデ戦となり現在に至る。平成8年からは東西で行われる金杯を区別するため、名称が『中山金杯』となった。『京都金杯』と並んで、新年の競馬を飾る名物競走として定着している。

日刊スポーツは、北海道・東京・愛知・大阪・福岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ サンライズステークス

サンライズ（Sunrise）は、「日の出」を意味する英語。

○ ポルックスステークス

ポルックス（Pollux）は、ふたご座のベータ星。ふたご座の恒星の中では最も明るい。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオンと共に「冬のダイヤモンド」を構成する。名は、ギリシア神話で兄カストルと共にゼウスとレダの間に生まれた双子の弟の名前「ポリュデウケース」に由来すると言われている。

○ フェアリーステークス（GⅢ）

本競走は、昭和59年に『テレビ東京賞3歳牝馬ステークス』として創設された重賞競走。当初は1600mで実施されていたが、平成3年に距離が1200mに短縮され、6年より現在の名称となった。20年の『阪神ジュベナイルフィリーズ』の実施時期移設に伴い、21年より実施時期を12月から1月へと変更し、距離を再び1600mに戻して実施されている。

フェアリー（Fairy）は、「妖精」を意味する英語。

<第3日>

○ 中山新春ジャンプステーキス

新春（しんしゅん）は、新年や正月を指す言葉。新年を表す季語として用いられる。

○ 成田特別

成田（なりた）は、千葉県北部の市。中世以来、成田不動で有名な成田山新勝寺の門前町として栄えた。東部の三里塚には、戦前のサラブレッド生産に大きな役割を果たした宮内庁下総御料牧場があった。現在は、世界 100 都市以上とのアクセスがある成田国際空港を有し、国際都市として発展している。

○ 迎春ステーキス

迎春（げいしゅん）は、新年を迎えること。賀詞として年賀状などに用いられる。

○ カーバンクルステーキス

カーバンクル（Carbuncle）は、1月の誕生石であるガーネットを丸く磨いたもの。元々ラテン語で「燃える石炭」または「小さな石炭」の意味で、転じてルビーなどの赤い宝石の総称としても使われる。この宝石を持つと、富と幸運がもたらされると言われている。

<第4日>

○ 菜の花賞

菜の花（なのはな）は、アブラナの花のこと。アブラナは、アブラナ科の越年草。千葉県の県花。ナタネ（菜種）とも呼ばれ、油料作物や野菜などとして広く栽培されている。花言葉は「競争」「快活」。

○ 初富士ステーキス

初富士（はつふじ）は、元日に望み見る富士山のこと。旧来より初富士は縁起の良いものと考えられている。新年を表す季語として用いられる。

○ ジャニュアリーステーキス

ジャニュアリー（January）は、「1月」を意味する英語。前後に顔を持つ門番の神で、日の出や日没をはじめ、あらゆる物事の始まりを司るとされたローマ神話の神ヤヌス（Janus）にちなんで、1年の最初にあたる月を「January」としたと言われている。

<第5日>

○ 初春ステークス

初春（はつはる）は、春の始め、新春のことを指す言葉。旧暦の1月のことを「初春月」とも言う。新年を表す季語として用いられる。

○ ニューイヤーステークス

ニューイヤー（New Year）は、「新年」を意味する英語。新年の挨拶は“Happy New Year”。

○ 京成杯（GⅢ）

本競走は、昭和36年に創設された重賞競走。創設から長きに渡り1600mで実施されていたが、平成11年に距離が2000mに延伸されたことにより、クラシックに向けて各馬の将来性や距離適性を試す上で更に重要な競走となった。

京成電鉄は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 初茜賞

初茜（はつあかね）は、元旦の初日が出る直前に東の空が黄赤色に染まった様子のこと。新年を表す季語として用いられる。

○ 東雲賞

東雲（しのめ）は、早朝に東の空がわずかに明るくなる頃のこと。元日の暁天は特に「初東雲」と言われる。

○ アレキサンドライトステークス

アレキサンドライト（Alexandrite）は、宝石の一種。太陽の下では草緑色、人工光の下では赤紫色に輝く高価な宝石として知られている。名は、この石がロシア皇帝アレクサンドル2世の成年式の日に見されたことに由来すると言われている。

<第7日>

○ 若竹賞

若竹（わかたけ）は、その年に生え出た竹のこと。今年竹、新竹ともいう。俳句の季語としても用いられ、与謝蕪村の『若竹や夕日の嗟峨と成にけり』などが有名。

○ 頌春賞

頌春（しょうしゅん）は、新春を褒めたたえること。年賀の挨拶として用いられる。

○ アメリカジョッキークラブカップ（GⅡ）

本競走は、日米の親善と友好を目的として、ニューヨーク・ジョッキークラブから優勝杯の贈呈を受け、昭和 35 年に創設された重賞競走。創設時は 2000m のハンデ戦であったが、翌年より 2600m の別定重量戦に変更された。その後、幾度かの距離の変更を経て、59 年に 2200m に短縮され（同年は降雪のためダート 1800m に変更）、現在に至る。